

視察研修報告

2022年5月19日 大崎昭一

研修テーマ：ひたち BRT 視察

研修日時：5月10日～11日

研修先：茨城県日立市

【概要・内容・所感】

茨城県日立市の「新交通導入事業 ひたち BRT（ビーアールティー） ～新しいまちづくりへの第一歩～」の取り組みを研修しました。BRT とは、BUS（バス）RAPID（高速）TRANSIT（交通機関）の頭文字です。

研修一日目は、座学で「ひたち BRT」の概要を学び、二日目は、市のご配慮で臨時便を出していただき「JR 常陸多賀駅」～「道の駅日立おさかなセンター」の区間約 8.7 km を乗車研修しました。

茨城県（人口 285 万人）は千葉県、埼玉県、栃木県、福島県に隣接し太平洋に面しており、日立市は県の北東部にあり気候温暖で東京都心から約 130km、品川駅から常磐線特急で約 2 時間に位置します。2022 年 4 月 1 日現在人口 169,474 人、高齢化率 33.4%、人口は県下 3 位です。

テレビ番組でおなじみの「日立世界ふしぎ発見」（TBS）の スポンサーである日立製作所の発祥の地。また、1998 年に 77 歳で永眠した作曲家吉田正氏生誕の地でもあります。

日立市は、人口減少、少子化加速、高齢化進展、大規模事業所の分社化や人員配置転換等で人口流出が顕著（2014 年人口社会現象 1,584 人で全国市町村ワースト 2 位）、慢性的な道路交通渋滞等々の状況の中で、新たなまちづくり計画を進めています。

その第一歩として、日立電鉄から譲り受けた鉄道跡地を活用して、新交通導入事業「ひたち BRT」に取り組みました。

その目的と位置づけは要約すると以下の内容と受け止めました。

- ① まちづくりの基軸として「ひたち BRT」を交通機能の向上及び沿線地域の活性化を図る。
- ② まちづくり基本方針を地域と共有する。
- ③ 市民・事業者との共同で進める。
- ④ 公共交通を軸としたまちづくりを推進し、地方都市再生のモデルとして発信する。
- ⑤ 公共交通網を充実させ、車に過度に頼らなくても日常生活の活動が済ませられる。

- ⑥ 誰もが健康で生き生きと暮らせるまち。
- ⑦ まちづくりと連携した公共交通ネットワークの再編。
- ⑧ 公共交通の利用促進。
- ⑨ その他。

バス路線専用道路は、日立電鉄(株)経営の日立電鉄線（全線 18.1 km、日立市内 13.1 km分）が 2005 年に廃線となり、放置状態であった鉄道跡地を 2008 年 8 月に日立電鉄(株)から寄付を受けて日立市が取得しました。

2009 年 3 月に日立電鉄跡地活用整備基本構想を策定。

2011 年 1 月に新交通導入計画を策定。

* 「交通渋滞の緩和を図りつつ、自動車交通に過度に依存しない新たな交通手段の確立」をすとして、「ひたち BRT」の導入を決定。

* 運行頻度最大 70 往復、公設民営方式（基盤整備は市、運行は交通事業者）、一日当たり約 2,800 人の需要を予測。

2013 年 3 月運行を開始。

* よりよいまちづくりのために、地域住民、沿線大企業・高校・商業観光事業者等 31 団体でサポーターズクラブが組織構成されています。

利用者数は毎年増加しているが、コロナ禍の影響もあり 2020 年度は 1,575 人/日で目標の 2400 人/日に対し、65.6%になります。

バス車窓から見る市街地では商店のシャッターが下りているのが目につきました。

国内の産業構造が変化する中で、日立市が新しいまちづくりへ努力をしていることを学びました。今回、研修を受け入れてくださった日立市議会事務局と関係部署の方がたの親切丁寧な対応に感謝します。

【本町の課題に反映すること】

町長は「三岐鉄道(株)へ未来永劫に補助金は出せない」との趣旨の発言をしました。本町の課題山積の中で、三岐鉄道北勢線の健全運営問題の検討は重要課題になってきています。

本町で誰もが健康で生き生きと暮らせるまちづくりを進めるうえで、本町の将来展望からも、とりわけ地域公共交通の鉄路は大切であり、桑名市、いなべ市との連携は地理的にも、歴史的にも切り離すことはできないのであって、協力協同と調和を重視して議論を深めることが肝要であると私は考えます。

最適選択は何か。本町、桑名市、いなべ市、交通事業者、住民参加で多角的議論の必要性を感じました。私もその見地で勉強努力することを今回の研修視察で強く学びました。以上